

平成20年度 環境技術実証事業
ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）
拡大ワーキンググループ会合（第3回）議事要旨

1. 日時：平成21年3月4日（水） 第1部 18:00～18:40 第2部 18:40～20:00
2. 場所：鉄鋼会館8階812号室
3. 議題
 - －第1部（拡大WG）－
 - (1) 事業および対象技術分野への要望・意見について
 - －第2部（第3回WG）－
 - (2) 平成20年度実証試験結果について
 - (3) 実証試験要領の変更点について
 - (4) その他
4. 出席検討員：佐土原聡（座長）、足永靖信、近藤靖史、武田 仁、森川泰成
欠席検討員：笠松正広
意見者（環境技術開発者）：住友スリーエム株式会社、日本ペイント販売株式会社、合成高分子ルーフィング工業会
意見者（実証機関）：大阪府、財団法人日本塗料検査協会
5. 配付資料
 - ・資料WG3-1 平成20年度環境技術実証事業ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）の運営全般に対するご意見
 - ・資料 WG3-2 実証試験結果データ（委員限り）
 - ・資料 WG3-3 実証試験結果報告書ひな形（委員限り）
 - ・資料 WG3-4 実証試験結果報告書記載事項一覧（委員限り）
 - ・資料 WG3-5 明度と日射反射率の関係（塗料）
 - ・資料 WG3-6 平成21年度ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減等技術）分野対象技術
 - ・資料 WG3-7 実証結果の表示について

 - ・参考資料1 平成20年度ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減等技術）実証試験要領
 - ・参考資料2 ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）ワーキンググループ会合（第2回）議事要旨
 - ・参考資料3 平成20年度ヒートアイランド対策技術分野拡大WG会合（第3回）の開催について
6. 議事
会議は公開で行われた。

－第1部（拡大WG）－

(1) 事業および対象技術分野への要望・意見について

資料 WG3-1 に基づき意見者による発表後、その意見に対する見解が検討員及び環境省出席者より述べられた。その主な内容は以下の通り。

- ・環境実証事業を有効な社会的認知とするための検討として、同事業のWEBサイトを広く一般の方にもわかりやすい形態に改良検討を進めている。
- ・本事業での知見を元に日射調整フィルムについては新たにグリーン購入法の特定調達品目となった。今後も他の環境評価制度（CASBEE、グリーン購入法など）と連携が図れるように検討していく。
- ・ヒートアイランド対策のみならず、地球温暖化・CO2削減の観点の実証が今後要検討。
- ・「高反射率防水シート」に関して、防水シート製造者の工法仕様に基づいた断熱材でのシステムとしての実証の検討が必要となる。
- ・試験体の作成準備を含め、実証のための十分な期間が必要。
- ・当該ヒートアイランド対策技術は、当初既存建築物を想定した外皮技術を対象としていた。しかし、対流顕熱量低減技術は新築建築物に適応可能であり、今後の課題。

－第2部（第3回WG）－

(2) 平成20年度実証試験結果及び報告書について

- ・資料 WG3-2 に基づき、現在まで終了分の実証試験結果（建材試験センター29技術、大阪府8技術、日本塗料検査協会40技術分の熱・光学的性能測定結果及びLESCOM-env計算結果）について事務局からの説明。（高反射率塗料の屋外暴露は試験中）
- ・高反射率塗料について、日射時の表面温度低減効果だけでなく、熱帯夜にも効果があると思われる夜間時における表面温度低減効果も算出してはどうかとの意見があった。（今後の検討事項）
- ・高反射率塗料及び高反射率防水シートの試験体について、申請技術との比較として用いているのは灰色（明度＝6.0）の一般塗料である。このため、技術の明度が高いものの（最大9.6）ほど有利な結果になるため結果の取り扱いには注意が必要である。
- ・申請技術間の不公平を少しでも解消するため、明度と空調負荷低減効果の相関から今回の計算結果に補正を加えることができないかという意見があった。（今後の検討課題）
- ・資料 WG3-3、4 に基づき、窓用フィルム、高反射率塗料、高反射率防水シート、高反射率瓦の報告書のひな形及び記載事項について事務局からの説明。
- ・窓用フィルムの報告書中の実証項目としての記述のうち「促進耐候性試験」は、「性能劣化の把握」に修正することの指摘があった。
- ・高反射率塗料の原理の記載に「断熱」という記述があり削除修正することの指摘があった。
- ・事務局から高反射率塗料について、報告書に追加掲載予定の空調負荷低減効果を算出するための日射反射率と明度の関係示したグラフ（資料 WG3-5）の説明。（提出された試験体の明度が技術ごとにバラツキがあったため、実証試験結果の有利不利をなくすための措置）
- ・今後の報告書作成、公表の時期等について事務局から説明。

「最終試験終了が3月中旬となり、報告書が纏まるのが3月下旬になる見込みで、その後各実証機関の実証委員会での最終確認頂いた後、最終版を環境省及び佐土原座長承認のもと公表前に各申請者（環境技術開発者）の方に確認頂く。公表時期は昨年と同様（5月）を想定。」

（3）実証試験要領の変更点について

- ・資料 WG3-6 に基づき、事務局から次年度追加検討対象技術の説明。また、同検討対象技術について LESCOM-env 計算は可能であることが確認された。
- ・今年度から対象とした技術（高反射率塗料など）について、今年度報告書に記載している具体的実証方法を実証試験要領に追加掲載することが確認された。
- ・現行の実証試験要領の 9, 10 ページの図表に記載している「熱伝導率」、「顕熱」、「熱伝導係数の表記」等が不適切であるため、見直しが必要であるとの指摘があった。

（4）その他

- ・実証結果の表示について（提案等）資料 WG3-7 に基づき、環境省から説明。

（文責：環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 速報のため事後修正の可能性あり）